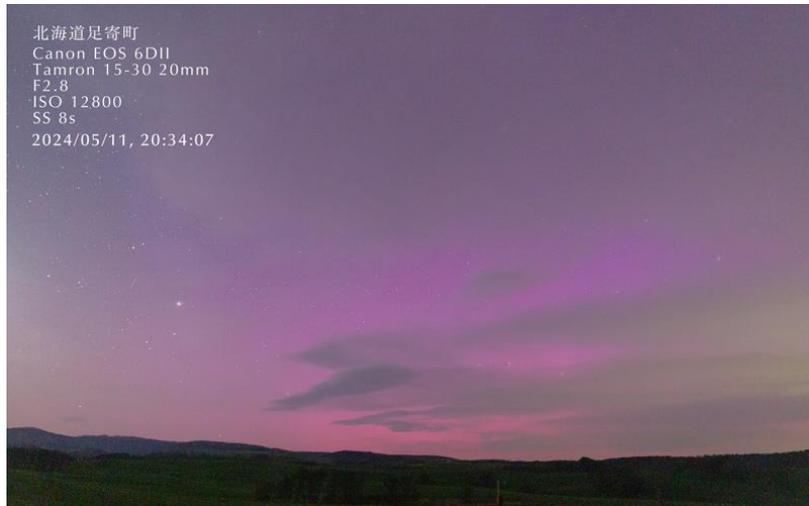


天文台発 ぽらりす

「2024年6月3日発行/毎月初めに天文台職員が情報発信します」



★北海道で観測された「低緯度オーロラ」



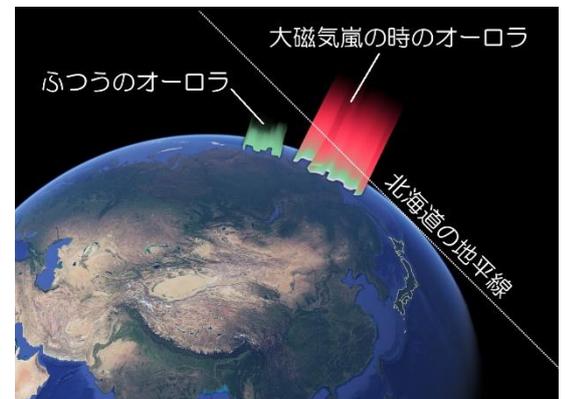
2024年5月11日の夜、低緯度オーロラが北海道をはじめとして、兵庫県や愛知県でも写真に撮影されました。肉眼で見た方は少なかったようですが、今回のように広い範囲でオーロラが観測されたのは数十年ぶりのことでした。

テレビやインターネットのニュースでも大きく取り上げられましたので、オーロラが太陽活動の影響で発生することを知られた方も多かったことと思います。

★オーロラの色について

オーロラというと、緑色のカーテン状のものを想像する方が多いでしょう。今回観測されたオーロラは赤やピンク色でした。赤色系のオーロラは太陽活動により地球の磁場に大きな乱れが発生した時だけの特別なものです。緑色の部分は日本からは地平線の下になり、見ることはできませんでした。

今回は、オーロラの本場のアラスカなど高緯度地帯では白夜のため深夜でも空が明るく、ほとんど観測されなかったようです。

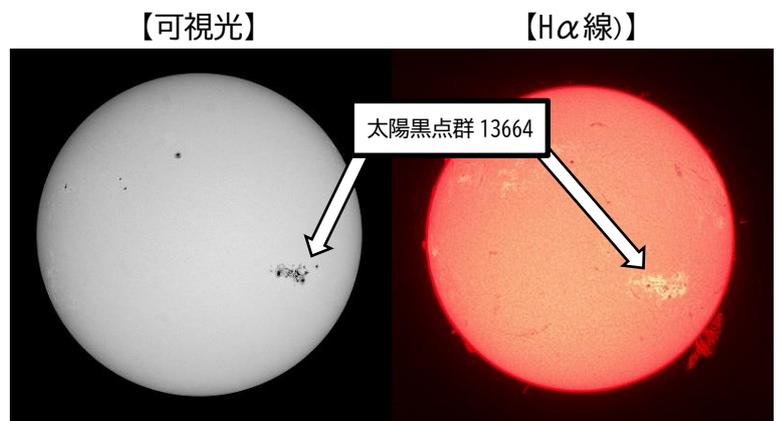


★オーロラの起源は太陽

こちらはオーロラ発生前日に、天文台で撮影した太陽です。右側(西側)に大きな黒点があり、大きな太陽フレアが発生してH α 線では同じ部分が明るく輝いていました。

オーロラは、アラスカや北欧などで冬に見られる現象として知られていますが、実は気温や地球上の気候とは関係なく、太陽の活動により地球の磁場が影響を受けることによって発生します。

太陽の活動は約11年の周期があることが知られており、昨年頃から活動期のピークに入っているとみられています。今年から数年のうちに、また日本国内でもオーロラが観測されるかもしれません。北極圏にオーロラ旅行を検討されている方も、このタイミングをぜひお勧めします。(横山明日香)



2024年5月10日の太陽(札幌市天文台撮影)

※H α 線(エイチ・アルファせん)…水素が放つ赤い光

【星を見よう】

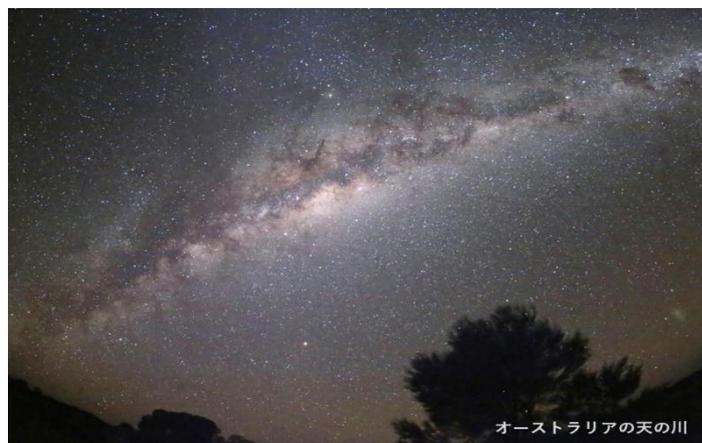
旅行をした時、多くの方はその土地の名所や料理、植生や建築物などから「ああ、遠くに来たなあ」と感じられる事でしょう。私は、旅行先の夜空の星を見て、遠くまで来た事を実感します。皆さんは「星はどこで見ても同じじゃないの?」と思っていませんか? 実は、星は見る場所によって色々な面白い姿を見せてくれます。例えば、同じ日本国内においても、北海道で低い位置に見える「さそり座」や「オリオン座」が、東京では 8 度、沖縄では 17 度も札幌より高く見えます。また、北海道では見えない星が見えたりもします。全天では「おおいぬ座のシリウス」に次いで2番目に明るい星、「りゅうこつ座のカノープス」が良い例です。「南極老人星」と呼ばれるこの星は、東京でも地平線からの高さが2度程しか昇らないため、よほど好条件が揃わないと見られません。この星を見た人はとても幸運で長生きができると言われていています。その「カノープス」もハワイまで行くと地平線からの高さが 16 度と高くなり、「シリウス」と南北に並んで輝く姿はとても力強く見応えがあります。

一方、南に行くほど見えにくくなる星が「北極星」です。札幌では地平線から43度の高い所に輝く「北極星」ですが、南に行くほど低くなり、赤道上では高さがほとんど0度になってしまい、それより南に行くと地平線下となり見る事ができません。

そして、赤道を越え南半球にわたると星空の様相は一変します。例えば、オーストラリアでは、普段日本で見慣れている星座は逆さまになり、南の空には見たことのない星座が広がっています。太陽も北の方向にあって右から左へ動くので、一見すると西から昇って東に沈むような不思議な感じがします。



また、南半球の空には北極星のような目印となる星がなく、近傍の星の配列から「天の南極」の位置を推測します。天の南極付近には日本からは見ることができない「南十字星」や「大小マゼラン銀河」などたくさんの美しい星々が存在します。そして最も目を見張るのが天の川です。天の川は私たちの太陽を含む多くの星が集まった「天の川銀河(銀河系)」を横から見た姿ですが、その中心付近が天頂まで昇ってくるため、その壮大で神秘的な姿を見上げることができます。皆さんも旅行先で星空を見上げ、いつもと違う星々を楽しんでみてはいかがでしょうか?



(林 美輝)

☆6月の夜間公開(予約は不要です。公開時間内にお越しください。)

14(金)~16(日) 20~22時 月・春の星座

休台日は3日(月)、10日(月)、17日(月)、24日(月)です。